住民の同意なき開発行為！石垣島白保リゾートホテル問題について

白保リゾートホテル問題連絡協議会会長　新里昌央

本紙16日の記事にある通り、㈱日建ハウジング（識名安信代表取締役）＝本社那覇市＝が石垣市内に設立した子会社が、白保に年間10万人宿泊規模のリゾートホテル建設を計画しています。設計は、東京の小田急電鉄㈱グループのリゾート事業展開を担うUDS㈱が行っています。事業者は「地域の理解を得ながら進めていく」と明言していましたが、白保公民館の同意もないまま行政手続きを進め、現在、開発許可申請が沖縄県で審査中です。そこで私たちは11月15日に計画反対を表明し、開発許可の不許可・計画撤回を求めて反対運動を始めました。

白保は、過去に空港問題でつらい経験をしました。新空港建設は八重山全体の経済発展に関わる公共事業で、多くの地権者も関係していたことが一因です。しかし、ホテル建設は土地を持つ企業の利益が目的の事業で、利害関係は空港問題と比べるまでもありません。ですから、過去にとらわれず、白保地域や子どもたちのために未来を見据えて開発計画を精査し、問題があれば指摘し、それが正されない場合に反対することは、白保に限らず、日本全国どこの地域でも行われることで、そのせいで再び白保が賛成・反対に分かれるようなことにはならないと考えます。

当協議会は、白保公民館の傘下・関連の4団体（白保ハーリー組合、白保魚湧く海保全協議会、NPO夏花、白保日曜市運営組合）からなり、農家や主婦のほか、漁業者やサンゴ観光ガイド等でつくる約50人の組織です。開発計画地の東には、世界最大規模の貴重なアオサンゴ群落があり、陸地も海域も国立公園に指定されています。また白保は昔ながらの風景に加え、伝統行事も多く残され、住民の努力によって守り受け継がれている地域で、市の観光財産としても非常に価値の高いところです。

昨年8月に概要説明が行われた際、公民館はまず私たち4団体に計画を説明するように事業者に要請。私たちが計画を検証した結果、多くの問題点が明らかになりました。

〈環境保全対策の欠陥〉

①開発計画地には公共下水道がなく、排水は地下浸透させる計画で、近接海域への悪影響が懸念される。しかも地盤は海抜以下で、豪雨に対して対応できない。②絶滅が懸念されるウミガメの産卵に対して、夜間は客室のカーテンを閉める、外灯を消すなど宿泊客任せで実現不可能な対策。

〈10万人の利用客による影響〉

③海浜・サンゴ礁の過剰観光利用。④交通量の増加・過剰な観光利用による白保集落の治安、風紀の悪化―などです。

また、石垣市は人手不足が続きホテル建設は地域振興になるという理屈は成り立ちません。そこで私たちはホームページでの問題の周知、署名活動、事業者側各企業へ公開質問状の送付を始めました。白保リゾートホテル問題で検索してみてください。より詳しい経緯などがわかります。

島のリゾート施設が全ていらないとは思いません。しかし地域の現状に合わない開発を認めることはできません。各所でホテル建設計画がある石垣市の皆さまに、いま改めてこの問題について考えていただきたいと思います。

2017年度沖縄県女性海外セミナー

「女性の翼」ニュージーランド親善交流事業

第34期　大松信子

女性の翼①

人としてより良く生きるために

春の入り口にさしかかった、南半球のニュージーランドを訪問する機会を頂きました。

若い国、ニュージーランド！　私たちが訪問した場所は、ニュージーランドの女性の素顔を見た気がしました。

男女共同参画、女性の社会進出等、先進地事業概要や会社経営方針等の説明で、何度も「私たちの国は若いです、だから失敗があっても怖くない、やり直せる」と失敗しても考える違う子どもたちが通っています。その中で印象的だったのは、2～3歳の子どもたちが、自分の意思を表明していました。その場面を見たとき、私は、将来のすてきな女性像が目に浮かぶようで、この小さなチャイルドセンターの小さな女の子に、ニュージーランドの女性の素顔を見た気がしました。

男女共同参画、女性の社会進出等、先進地当然で、やはり努力していくことが重要であると話されていたのが印象的でした。その中で、「あなたたちは、女性が何を勝ち取っていきたい（行こう）と思っているの？」と[illegible]かけられ[illegible]の根源を問われた[illegible]

[illegible]に良くなるように努力し、[illegible]に市し、男女共[illegible]社会を目指す[illegible]ら〝ということではなく日本、沖縄、私の住む石垣島、場所は変わっても男性も女性も、人としてより良く生きるために社会貢献を見つめ直し、意識を高め、人が人としてさらに良くなるように努力し、[illegible]に市し、男女共[illegible]社会を目指す[illegible]を探し出し始めたとき、根っこに沖縄があることを見つけてほしい。」「遠く離れてみると沖縄の文化、人間的な良さが良くわかる。それを子どもたちにどのように伝えるか」[illegible]と[illegible]でよく話し合いをしていることを聞[illegible]と、胸の中に熱いもの[illegible]げてきました。

同窓生の皆さま、お元気でしょうか。早いもので、ことしは4回目の生まれ年を迎える歳となりました。

私たちが産まれた1969年（70年、早生まれの方もいますが）は、アポロ11号が初めて月面着陸に成功し、人類史上大きな一歩を示した年でもありました。

72年の沖縄返還や75年の沖縄国際海洋博覧会開幕、76年は郷里の偉大な先輩、具志堅用高氏がチャンピオンのグスマンを7回KOで破り世界Jフライ級王座を獲得。沖縄中、否日本中が沸いたその年、私たちは小学1年生でした。

あれから40年。学生の頃、「四十にして惑わず」という孔子の言葉を学びましたが40代半ば過ぎても、そのような心境には程遠く、葛藤の[illegible]の前のこと